

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570100713		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホームあかつきの里		
所在地	山口県下関市汐入町36-6		
自己評価作成日	平成21年12月21日	評価結果市町受理日	平成24年7月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市古敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・ご家族・職員が安全と安心の中で、共に支え合うことを目指して、レベルの差がある18名ですが、さりげなくお互いを助け合い、生き生きした言動や笑顔で過ごしていただく為の優しいケアを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族からの意見や要望が出しやすいように配慮され、家族の訪問時や電話、事業所の行事に併せて行う家族会等で出された意見や要望は、法人の責任者会議で報告しておられ、それらを運営に反映しておられます。管理者は、月1回のスタッフ会議や日常のケアの中で出された職員の意見を集約され、法人の責任者会議や職員代表者会議で提案し話し合っておられ、利用者の安全や暮らしの快適さに反映されるシステムが整えられています。ケアの充実を図るための新人職員の育成に工夫しておられ、外部機関での新人研修や法人内研修の受講の他、1か月間は勤務日誌の記録を義務付けておられ、主任やベテラン職員からマンツーマンで指導を受けながら働きながら学べるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はホーム内に掲示し、朝礼時出勤者全員で唱和し常に念頭に置き日々の生活の中で実践につながるよう努力している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を共用空間に掲示し、朝礼時に職員全員で唱和をし共有している。利用者のできることを大切に、自立した生活の支援を常に心がけながら、日々のケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入し、夏祭り、海岸の清掃や海峡マラソンへのボランティアの参加など地域の行事に参加している。利用者は併設のケアハウスの住民からの声かけやボランティアの訪問など、日常的な交流が続いている。	自治会に加入し、地区の清掃や地域行事のボランティア活動に参加している。法人主催の夏祭りでは、家族会や地域からの参加を得て、夜店やカラオケなどを楽しみ、交流を図っている。地区の保育園児や学生ボランティアの訪問等があり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの方々のご意見を頂くとともに認知症を理解、又は支援して行くことの大切さをいつも発信している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共に自己評価や外部評価を実施することがサービスの改善につながることに充分理解している。自己評価表は職員全員に配布し記入してもらい後日結果を持ち寄って話し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	管理者、職員は評価を実施する意義を理解しており、今回の自己評価では、職員全員に評価表を配布し記入してもらい、新人職員には、ベテラン職員が指導しながら、全員で取り組んでいる。自己評価を基にスタッフ会議を開催し、介護のあり方やサービスの手順について再検討し、サービスの向上や具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の日々の活動内容やサービスの状況報告の他、自己評価の内容や評価結果で明らかになった課題について説明し参加者から意見、助言等をいただきながらサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事報告、外部評価への取組状況等を報告し、成年後見制度や感染症対策などについて意見交換して、サービスの質の向上に活かしている。	・地域住民等の参加者メンバーの拡大

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では、事故報告の提出時や市役所に立ち寄った時に互いの情報交換を行っており相談にもものってもらっている。	市の担当課とは、実地指導や介護保険の申請、事故報告などの機会に、相談や情報交換を行っている。地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、困難事例の相談や情報交換を行い、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員周知徹底している。玄関の鍵は常時開いておりチャイムが鳴ることで出入りの確認をするよう徹底している。	身体拘束排除のためのマニュアルがあり、職員は研修を実施して身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに努めている。利用者の動向を把握しており、玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学び全員で周知している。常にマニュアルを手の届く所に置き日々の業務でも日頃から話題にし、未然防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議などで制度について学ぶ機会があり、権利擁護については現在利用されている方が居られるので、生活支援委員の方からアドバイスを頂いている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いて誠意を持って十分に説明を行なう。理解納得して頂けるように、時間を掛けて何度も説明するように心がけている。改定等は家族総会にて説明を行い同意書を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の手順は明文化されている。苦情相談の受付窓口は設置し重要事項説明書にも明示しており、会議等も行っている。	家族の訪問時や電話、事業所の行事を兼ねた年3回の家族会の際に、意見や要望などを聞いており、その内容を運営に反映させている。苦情や意見は、法人の責任者会議で報告するシステムがある。苦情相談窓口及び担当者、苦情解決責任者、外部機関は明示しており、苦情処理の手続きを明確に定めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月報告会・会議を行なっている。職員の意見や提案を議題とし改善に取り組んでいる。	管理者は、日常のケアの中で出た職員からの意見を集約したり、月1回のスタッフ会議で意見や提案を出し合い、共有した後に月1回開催する法人の代表者会議で提案している。物品の購入や設備の故障、処遇改善等を提案し、安全や快適さの充実に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に配置して、目標を持って取り組んで行えるように努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修その段階に応じた研修に参加している。研修で学んだ事は他職員に報告して業務に役立てるように努力している。	外部研修は、中堅研修や新人研修など勤務経験や段階に応じて受講の機会を提供している。法人内研修は全職員を対象に月1回、医療連携研修は2,3ヶ月に1回実施している。事業所内では、毎月1回のスタッフ会議の中で全職員の参加による勉強会を実施している。新人職員は、最初の1ヶ月間は主任やベテラン職員からマンツーマンで指導を受け、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内・市内の研修会にて交流する機会を作り、サービス向上に繋がるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い共有する時間を大切にして情報を収集して本人主体の穏やかな生活が出来るよう努力している		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会を出来る限り頻繁にして頂くように働きかけ本人これまでの家族との関係・生活習慣等の情報や不安や要望を聞く場を作るようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時利用者・家族の要望を聞いて検討している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしているという視点から日常生活において喜怒哀楽を共に感じ、人生の先輩である事を忘れず支えあえる関係作りに心掛けている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況やホームでの様子を面会時、電話、広報誌等で出来る限り伝え家族会等で意見交換出来る場を作っている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や地域との交流を図り家族の協力で外出する機会を設けている。手紙での交流がある方は関係が継続出来るように支援している	親戚や友人、近所の人、以前住んでいたケアハウスの利用者や宗教関係者等の訪問がある。手紙やはがき、暑中見舞いや年賀状などの交換を支援したり、家族の協力を得て、墓参り、お盆やお正月の外泊、温泉巡りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性を大切にした上で協力し合い、一つの事をやり遂げ(食事作りの手伝い・壁飾りの作成等)交友を深められるよう支援している		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昭和病院に入院されたまま退居された方は時々お見舞いに行き励ましている。家族と偶然お会いすることがあれば話は傾聴している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で常に声かけを行い家族とも頻繁に連絡を取り合い希望・意向の把握をしている。	センター方式の24時間生活変化シートを活用して利用者の思いを記載し、日常のケアの中での本人の話した言葉等をつぶやきノートに記録して、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、本人の表情やしぐさから読み取れるよう、日頃から寄り添うケアを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用していた施設や在宅のケアマネから情報収集している。センター方式を利用し、家族からも面会時等に少しずつ情報を得る。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、バイタルチェック等ケース記録に記入し朝礼などで申し送りをして情報を共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との日々の関わりで思いを聞き、家族との話し合いを蜜にし面会時等に意見を聴いて介護計画を作成している。	職員全員で毎月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者一人ひとりのモニタリングを行っている。担当者会議は6ヶ月ごとに行い、利用者や家族の意見や状況、かかりつけ医からの意見を参考にしながら介護計画を作成している。利用者の状態に変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・生活日誌に記録し日々の朝礼にて職員間で情報を共有し、変化あるときは見直ししている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を取り緊急時対応している。買物や家族がいけない場合の通院介助等支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り等大きな行事はボランティア利用。2ヶ月に一回、ビューティヘルパー利用している。グループ内の保育園児や併設している事業所の行事には積極的に参加して交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制の説明を行い同意を得てグループ内医療機関に受診して頂く	本人、家族の同意を得て、協力医療機関がかかりつけ医となっている。緊急時や2週間に1回の定期受診は職員が同行し、医療連携のもと、看護師の体調管理等適切な医療が受けられるように支援している。受診後の情報は服薬管理を含め、家族、職員間で共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の馴染みの看護師が来設されるので常に些細なことでも話している。助言を受けて利用者の健康管理の支援を行なっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換やカンファレンスなど行いダメージを防ぐようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から本人や家族の気持ちを大切にしながら主治医の意見をもとに看護師、職員全体で話し合いを繰り返している。方針を共有し安心と安全を確保できるよう支援に取り組んでいる。	利用開始時に、事業所の方針を家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、主治医、関係者と段階に応じて話し合い、医療機関への移設も含め支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハットが出た時は検討会議を開き事故防止に取り組むと共に利用者各々に合ったケアが出来るように心掛けている。 医療連携体制の看護師による研修を受けたり消防訓練を受けて緊急時に備えている。	事故防止マニュアルを基に勉強会を実施している。ヒヤリハット・事故報告書に発生の経過、内容、改善策を記録し、発生の都度、職員間で話し合い一人ひとりに応じた事故防止に努めている。消防署の協力によるAEDの使用方法や看護師からの応急手当の方法について学んでいるが、全職員対象の応急手当や初期対応の定期的な訓練としては、十分とはいえない。	・全職員対象の応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時、慌てず誘導出来る様に消防士より指導は受けている。 運営推進会議の中で地域の方に協力をお願いしている。	消防署の協力の下、併設のケアハウスやデイサービスと一緒に避難訓練や、救急訓練、消火訓練を実施し、法人内での協力体制を整備している。事業所内では、「防災マニュアル」や「避難訓練マニュアル」を基に年1回、避難訓練、通報訓練を利用者と一緒に実施し、防災意識を高めると共に、避難方法が身につくよう取り組んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの保護には全職員が厳守できるようにスタッフ会議や朝礼などで徹底している。	人格の尊重とプライバシーの確保については、法人の接遇研修を通して理解し、スタッフ会議や朝礼等で確認し、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応に努めている。不適切な対応等があれば、職員間で互いに注意、指導をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人本位の思いを伝えてもらうよう利用者一人一人に寄り添い傾聴する時間を作り日常的に信頼関係を気づくよう努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活リズムを大切にしながら一人ひとりのペースを大切にし一対一で対応したり、好きな事を行なう時間をもてるように支援している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ビューティーヘルパーの利用により本人の好みの髪型が出来るように支援している。洋服選びは本人に任せ足りない物を補うようにしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に対する意欲が湧き出るようにテレビなどで美味しいものを見ると皆で共感しあったり、簡単な調理・野菜の切り込み・もやしの根とり等をおしゃべりしながら行なっている	昼食は、法人からの配食で、朝食と夕食は、事業所内で調理している。利用者の好みを聞いて献立をたて、利用者は、調理、お茶の準備、食器洗い、台拭き等できることを職員と一緒にして、同じ食卓を囲み会話をはずませながら、和やかに食事を楽しんでいる。誕生日や季節行事には食事内容を工夫したり、外食をするなど、食事を楽しむことができるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示のもとこじんの健康状態に応じて主食の量を加減したり栄養補助食品など利用している。水分量はケース記録に記入把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・夕食後には個人に応じた対応が出来るように心掛けている。義歯に関しては正しく手入れできるように個別に行なっている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しプライドを傷付けない様周りにも気を配り声かけ誘導行なう	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけない言葉かけに配慮した排泄支援を行っている。日中、夜間共に、トイレでの排泄を基本とした支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物で便秘解消を試みている 水分摂取量をチェックし十分な水分補給を行なう 適度な運動を欠かさず行なう様にし自然排便心掛けている。毎日排便チェック表にて排便状態を確認している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を聞き生活リズムに合わせ入浴して頂く。 又、入浴後の体調も様子観察する。 入浴拒否有る時は無理強いはいしない	入浴は基本的には週に2回で、本人の希望にそってゆっくり入浴できるように支援している。入浴したくない場合は無理強いをせず、タイミングや声かけを工夫している。利用者全員に足浴を毎日実施する他、入浴できない日は、正式、シャワー浴など一人ひとりに応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢体調等一人ひとりの睡眠状態を把握し、日中の活動を様子観察し疲労が感じられる時は昼寝・休憩をとって頂く様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬剤情報提供書をファイリングしている。飲み忘れ・誤薬防止の為に投薬カレンダーにて管理している。服薬時には確認の徹底を何度もしている。受診時には、血圧・服薬状況等必要な情報を報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を確認することで個々の潜在している記憶・出来る力を生かす場所作りをし自分らしく暮らして行けるように支援している。 四季折々の行事や催物を計画し気分転換を図る	テレビやDVDを見たり、新聞や雑誌を読んだり、カラオケ、習字、ぬり絵、貼り絵、リハビリ体操、室内ウォーキングなどの楽しみ事や、調理や食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、廃油パック作り、水遣りなどの活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は体調チェックし一人ひとりにストレスが溜まらない様、又、気分転換図る為短時間でも外に出る機会を作っている。希望される場所へ出掛けられる時家族への声かけも行なっている。	天気の良い日には周辺の散歩をしたり、日用品の買い物、季節の花見(桜、えんげいせんたー)に出かけたり、家族の協力を得て、ドライブや買い物、外食、墓参りなど、本人の希望にそって出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事などで買物をする時は横で見守りをして支払いをする時の支援をしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話の使用を可能とし、又、携帯電話も家族と相談の上、所持可能とし自由に使用して頂いている。手紙は職員の声かけにより、本人が書きたい時には書いていただき一緒にポストに出しに行く事を支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、利用者が移動しやすい家具配置をし居心地良くしている。又、利用者と一緒に季節ごとの作品やカレンダーを作り壁に飾り付けをしている	大きなガラス窓のある共用ホールは、広く、明るく、テレビやテーブル、椅子、ソファを配置し、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。季節の花を活け、壁には利用者の習字や季節の貼り絵などの作品、行事の写真等が飾っており、室内の温度や明るさ、音も適切に調節し、喚気にも配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で自席を決めて居場所を作っている。又、その時々人間関係や体調により席替え等を行なう事により利用者同士が落ち着いた生活が送れるように工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた馴染みの物を使用し好みの物を置くことにより穏やかに生活出来るように工夫している	使い慣れた家具や鏡台、机、イス、衣類などが持ち込み、家族の写真や絵、人形、利用者の作品を飾るなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行出来るようにホーム内の床はフローリングにしてある。一人ひとりの出来る力を引き出す為その方に合わせた声かけや見守りを工夫している。又歩行時には見守りと介助を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム あかつきの里

作成日： 平成 24年 7月 3日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5 (4)	・家族や地域住民からの参加がない	・地域住民等の参加メンバーの拡大	・2ユニットあるため、各ユニット1名ずつの御家族様に参加していただく。 ・H24年度7月開催予定の第2回運営推進会議よりご家族様に参加していただくための案内状を送付済	1年をかけて安定させるよう努力する
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。